


教材・支援機器活用実践事例

朝の活動に自分で取り組めるようになるための支援  
「朝の活動のスケジュール」

子どもについて	所属・学年	幼稚園 集団
	障がい名等	
	子どもの実態 (学習上又は生活上の困難さ等)	・3歳児から取り入れているが、幼児は文字や口頭での指示だけでは難しい場合があるので、年少児も理解しやすい情報提供の仕方が必要である。
授業について (教材・教具を使用した授業や指導場面)	教科名等	朝の活動
	単元(題材)名	
	単元(題材)の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達段階に応じて、朝の活動の流れを提示できるようにする。</li> <li>・子どもの動線に合わせて、必要な内容を提示し、活動の流れがわかるようにする。</li> </ul>
教材・教具 支援機器について	教材・教具 ・支援機器	
	ねらい・工夫点	<p>〈ねらい〉</p> <p>○登園後に、何をどのような順で行えばよいかわかり、自分で取り組むことができる。</p> <p>〈工夫点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見やすいように子どもの目の高さに配置する。</li> <li>・子どもにわかる言葉で提示する。</li> <li>・4歳、5歳と年齢が上がるにつれて、必要なものを精選し、徐々に減らしていく。</li> </ul>
	材料・作成方法等	
子どもの変容や評価	<p>・はじめは教師が声をかけながら朝の活動に取り組んでいたが、3歳児も物の名前を覚え、絵カードを見て自分で確認しながら朝の活動に取り組めるようになってきた。</p>	

(令和元年度)